

「食にも困る留学生への寄付」のお礼と活動報告

2021年1月18日

移住労働者と共に生きるネットワーク・九州

「食にも困る留学生への寄付」担当 竹内正宣

814-0002 福岡市早良区西新-11-27 505

Tel 092-834-5685

寄付をされた皆様

過日は、ご厚志によるご寄付を頂きまして、ありがとうございます。遅くなりましたが、活動の報告をいたします。

1、活動の始まりと食料支援の概要報告

昨年4月7日に7都府県に緊急事態宣言がだされましたが、同15日ころ竹内がドアンさん（ファム トウルン ドアンさん）に電話で、留学生等のバイト減少による生活困窮の恐れについて問い合わせ、ドアンさんが「僕困った人に食べ物をやります。」と言うので、ならば竹内が「ネットワークで寄付を集めますよ」と応えたことから始まりました。同16日には緊急事態宣言の対象が全国に拡大されましたが、4月22日「移住労働者と共に生きるネットワーク・九州」では、「食にも困る留学生への寄付のお願い」を会員や関係者に発しました。当時当ネットワークも含め、ボランティア団体は、新型コロナウイルスとの対処に苦慮し、スタッフ同士の面会も避ける等ほとんどの団体、個人がフリーズしている状態がほとんどでした。動くにしても極力非接触でできることは何か、かなり思案しました。

ドアンさんとの話で、食料の支援は、おおむね一人当たり食料3,000円前後、送料を入れて4,000円前後の予算で、米5キロに加えて保存ができる麺類等を添えることになりました。支給の対象は、主に留学生ですが、国籍と宗教にこだわらない、それ以外でも「欲しい」という人には誰にでも支援することにしました。

この中ドアンさんはベトナム人のインターネットのFACEBOOK等を使って「食べるのに困っていたら言ってください。言った人みんなに食べ物を送ります。国籍や宗教は問いません。」と訴えかけました。

当ネットワークでも福岡都市圏周辺の大学、日本語学校の知古の関係者10数名に個別に、支援の対象者の照会をしましたが、「学生が来ていない」（把握できていない）等で支援の要請はほとんどありませんでした。

この間、NHK福岡の取材にもドアンさんの活動開始を伝え、4月下旬にローカル番組で報道され、5月23日には毎日新聞の報道（巻末に添付）とそのホームページに記事がしばらくの間掲載されたこと、5月中旬より定額特別給付金10万円の給付が始まったことも重なり、励ましの言葉（本報告の中ほどの掲載）とともに、寄付が多く寄せられ、6月末には100万円に達しました。本当にありがとうございました。

いざ活動を始めると、助けを求める声もありましたが、意外にも、「助けてください」とは自らは言い出せない留学生、技能実習生、他の外国人生活者が多いことがわかりました。エピソードを紹介します。福岡近郊のカトリック教会でのこと、緊急事態宣言下で、ミサも中止になっているときに、フィリピン人神父さんのもとに、同じフィリピン人の技能実習生の女性が訪ねてきました。ミサは中止なので、神父さんは、この女性は何か困ったことがあって来たと思い、「何か困ったことでもありますか？」と尋ねると、この女性は、「いいえ何ともありません」と答えたそうです。そこで神父さんは「ここにある食料はどれでも持って帰っていいですよ」と伝えると、取って帰ったそうです。後日神父さんは、あの女性は食べ物に困っていたけど、言い出せなかったのか！ と気づき、当方にその女性の住所を伝えてき、その女性宛に食料をゆうパックで送りました。そしてその女性から神父さんにお礼の言葉が帰ってきたとのことでした。

国籍別では、日本に在留する同国籍者の組織がしっかりしているところは、困窮者の把握が具体的でしたが、つながりの少ない国の人たちは、こちらから「困った人はいませんか」と個別に個人に投げかけても、「大丈夫です」という反応が返ってきて、「本当かなー」と思うことが度々でした。「困っている、助けてください」ということを言い出せない社会の雰囲気、特に外国人への厳しい日本人の目を気にして言い出せないのではないかと、思います。

緊急事態宣言下では、NPO 団体、宗教団体、外国人のグループ、コミュニティー等もほぼ活動を停止し、食料支援をするところはほとんどありませんでしたが、5月25日に緊急事態宣言が解除されて以降、恐る恐る動きをはじめ出した団体、グループ、個人もあり、いろんなチャンネルで支援の動きが出始めました。カトリック教会関係で食料を募るとか、アジア系のコミュニティーで同国人の留学生への支援を始める、大学で留学生を含む学生への食料配布を始める等の動きです。

支援の対象は、結果的に国籍ではベトナムが多く、宗教もカトリック関係が多くなりました。

当活動も6月から11月ころまでは、個人への対応よりは、カトリック教会での配布、大学での配布、福岡近郊以外の都市ではベトナム食料販売店の店頭に取りに行ってもらう等の方法に切り替えました。

国や宗教にこだわらず支援するとした目標ですが、現実にできたことは、公平にと言えるほど広くはできませんでした。ただ緊急事態宣言下で、多くのボランティア活動が停止する中で、忘れ去られていた主にアジアからの留学生たちの困窮に対して、皆様から頂きましたご寄付を食べ物等として数百人に現実に届けることが出来ました。またこのような留学生等の窮状を知ってもらうこと、緊急事態宣言下でもできる支援はある、ということを示すことはできました。

現況と今後

新型コロナウイルスの感染が増減を繰り返し、現在もまだ留学生のバイトや外国人の就

労の状況は改善しないまま、生活は厳しい持久戦になっています。現在も留学生への支援の必要性は何ら変わらない中で、宗教関係者、学校関係者、アジア系の同国のコミュニティー等のいろんなチャンネルの団体・グループが、それなりに動いております。当「食にも困る留学生への寄付」は、活動に区切りをつけ、今後は、「移住労働者共に生きるネットワーク・九州」の活動の中で対応していくことにいたします。本日現在の残金 8,339 円は、当ネットワークの通常会計に繰り入れ、外国人支援に使わせていただきたいと思います。

2、活動の内容

①寄せられました寄付

延べ 60 件

お金の寄付は 55 件。 総額 119 万 1,100 円

物品の寄付は 5 件。

内訳は、米 30 キロ、缶詰、消毒液 10 キロ、アスパラやナス、オクラ、キュウリなどの野菜各 1 - 2 箱、ナシ、ぶどうなど各 1 - 2 箱、そうめん等。

複数回の寄付の方、特別給付金と思われる金額をそのまま寄付された方もおられました。なお、物品提供の申し出や「現金を今からそちらへ持って行きます。」という電話を頂きましたが、4 - 5 月の緊急事態宣言の時は、新型コロナウイルス感染防止のために、できるだけ非接触型の受け取りに徹して、お金の振り込みに限らせていただきました。

(寄付の郵便振込用紙に書かれていましたメッセージの紹介 時系列順)

- ・大変ですけど頑張ってください。このくらいしかできませんけど応援していきます。(希望) テレビに出た女性 (4月30日、福岡県朝倉市、女性)
- ・留学生への寄付として、少額ですいません。皆様の活動に感謝します。(5月7日、福岡市、女性)
- ・安倍さん(?)からの10万円、早めに届けます。役立ててください。(5月7日、福岡県筑紫野市、男性)
- ・ネットでドアンさんの記事を読みました。コロナで困っている方にお役立てください。(5月25日、さいたま市、女性)
- ・毎日新聞の記事を読みました。僅かですが、ドアンさんへ。(5月26日、福岡市、女性)
- ・新聞で活動を知りました。活動の一部になればと思います。頑張ってください。(5月27日、福岡市、女性)
- ・公的支援が届かない在日外国人の方に使ってください。(6月2日、熊本市、男性)
- ・新聞で移住労働者の支援のことを知りました。僅かですがお役立てください。(6月2日、福岡市、女性)
- ・ドアンさんの活動支援です。人出も必要と思いますが、とりあえずお金を送ります。(6

月 8 日、熊本県八代郡、女性)

・留学生支援 頑張ってください。祈っています。(6月11日、福岡県久留米市、男性)

・毎日新聞の記事を読みました。ベトナム人の方に寄付します。(6月17日、福岡県久留米市、女性)

・コロナに加え、この度の豪雨で困っていらっしゃる方が大勢いると思います。少しですが、お役立てください。(7月20日、さいたま市、女性)

・コロナ禍が続いており、海外から来られた方々が寒い思いやお腹をすかせておられないか、とても心配です。少しですが、お役立て下さいましたら幸いです。スタッフの皆様もお体お気をつけください。(12月23日、さいたま市、女性)

②食料等の支援の内容

(ア)配布物

米 870 キロ (5 キロ袋で 174 人分) 乾燥の麺類、食用油、現物で寄付された米、野菜、果物、缶詰、消毒液、マスク

現金 (ネパール国籍の留学生に同国の団体を通じて)

(イ)食料の支給方法

基本的には、関係者が集まって作業することなどは避けることにしました。ひとえにドアンさんの活動によります。

- a 直接食料を配達 (福岡地区近郊へのドアンさんが手渡し 約 10 件) (4月中旬から5月中旬)



写真はドアンさん (右) から食料を受け取るベトナム人留学生 (左)

- b ゆうパック (郵便小包) で食料を送付 28 件、レターパックで消毒液の送付 18 件 (4月中旬から5月中旬)

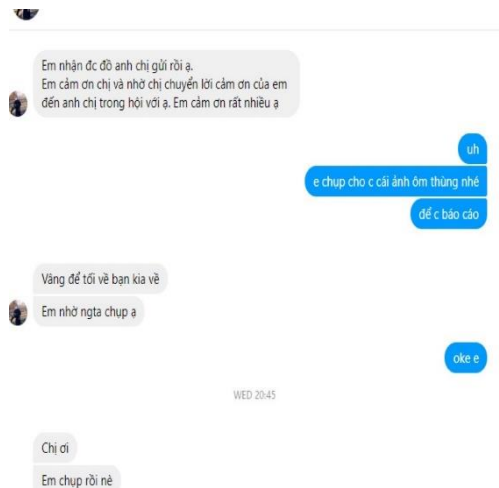


左の写真：遠方の留学生に届いたゆうパック（郵便小包）。段ボール箱から出された米5キロの袋、食用油、麺類（ポー）、魚醤（醤油）のサンプルなど
右の写真：ゆうパックを受け取って喜ぶ留学生



写真：消毒液をメールパックで送付

食料を受け取った留学生からドアンさんへのお礼のメッセージ（FACEBOOK）



(お礼の文の訳)

ありがとうございました。

ドアンさんの家族はお元気で マリア様は あなたの家族の上にありますように

c カトリック教会で食料を配布 (7月から12月に実施)

福岡市東区所在のカトリック箱崎教会

8月23日と8月30日で5キロの米48袋を配布等。

12月にも年末年始のための配布

福岡県行橋市所在のカトリック行橋教会

9月2日米以外の食料一人当たり4,000円相当を10セット関係者に引き渡し

d 大学で食料を支給 (7月1日米5キログラム22人、8月18日米5キログラムと野菜等14人に実施)

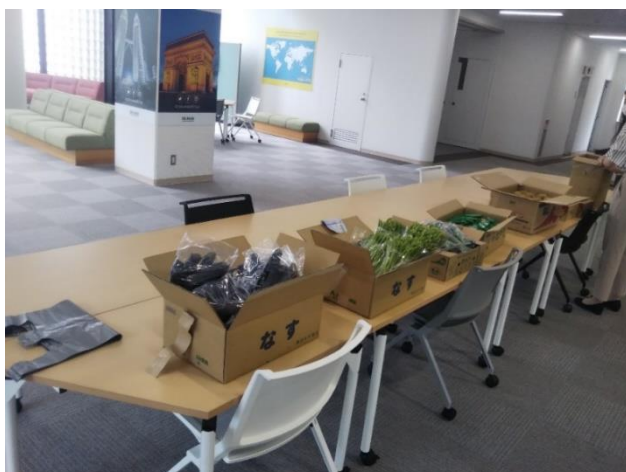


写真: 西南大学において、農協の協力により頂いた野菜や果物と、米など食料の配布準備中の様子 (2回目 2020年8月18日)

e ベトナム食料販売店で食料を配布 (北九州、熊本県八代市、久留米市、大分市)

1人3,000円程度を目処に、店に申し出があれば支給。

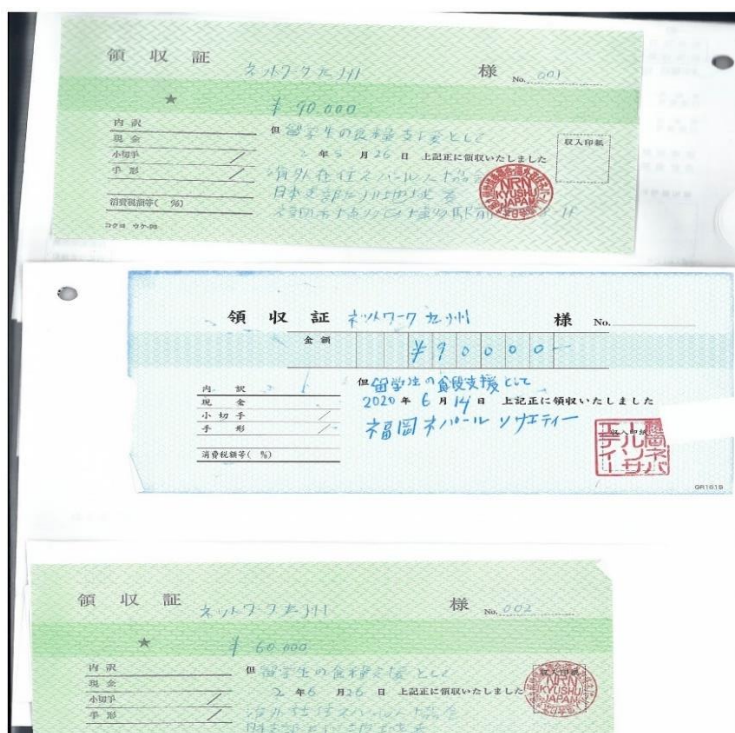


写真左: 北九州市のお店



写真右: 熊本県八代市のお店

- f ネパール人組織を通じて食料購入資金として現金の提供3回（一人 3,000 円で、福岡県以外の九州の留学生に 30 人と 20 人の 2 回、福岡県内 30 人の 1 回 計 80 人分 24 万円）



上と下が海外在住ネパール人協会日本支部九州地域委員会 中は福岡ネパールソサエティ

(ウ) 国籍別

実際に支援を受けた多くはベトナム国籍の方です。ネパール国籍の留学生は、日本在留のネパール人団体の九州支部から案内をしてもらったために、九州各地に居住する留学生に情報が行きわたったようです。インドネシア国籍の留学生については、福岡県内の同国友好団体の活動があり、力を入れませんでした。スリランカ国籍とフィリピン国籍の留学生等について 複数のチャンネルで尋ねたが、支援の要請はなく、少数の方に支援したのみです。他の国籍者については、ごく少数の方に支援したのみです。

(エ) 対象者の職業等

ほとんどが留学生ですが、3月に日本語学校を卒業あるいは中途退学になり、国に帰るつもりが帰れず在留資格が切れた元留学生、仕事が減ったあるいは解雇された技能実習生等もいました。

3、ドアンさんからお礼の言葉

皆様

先日は大変お世話になりありがとうございました。おかげで無事にボランティアの事を終えることができました。おかげで大変楽しく過ごすことができました。改めて感謝いたしております。

コロナ年になって皆様にも大変と思いますが僕たち(外国人)の事を考えてくれて本当に気持ちが良くなりました。自分がやった事を紹介致します。

ファム トウルン ドアンと申します。ベトナムから参りました。今年29歳、結婚して子供が3歳です。現在 車整備工場で社員として仕事をやってます。

「なぜか」僕そんなボランティア事を行ったのか 皆様も知りたいですか？ なんでも理由があるはずでしょうね？

今までたくさんの方々助けてくれて思いやりで人にもやってあげたい心です。

元々僕の嫁が技能実習生として大分県で仕事をしていました。付き合ってた子供ができて結婚しようと思っていましたが色々問題が発生しました(技能実習生簡単に結婚する事ができないとか 子供ができて帰国しないといけませんなど。) 悩みどころに竹内さんと相談して色々教えていただいて上手く行きました。その時から人を助けることは大切だと思ってますがそれから色々活動をやりました。その中に今回 新型コロナウイルス の影響です。

去年の4月16日から活動を始めました。 目的は苦しい生活の人に食品などをあげる事です。国籍関係なくてどんな国の人も助けます。

学生と技能実習生コロナのせいで苦しい生活をしている人たちです。

仕事がなくなって、帰国できなくて、学校も休みなどです。貧国から来ている外国人たちはアルバイトがなくて生活本当苦しいです。

自分の家族があつて出来ることまでしかできなくて皆様から頂いているお金で 一杯米や食べ物を買って たくさんの人にあげることができてよかったです。今まで全国約250人ぐらいにあげました。

去年コロナの年がと言えるかもしれませんですね。新型コロナウイルスコロナのせいで世界に影響すると思いますがその中に日本にいる外国人には本当には凄く影響が大きいです。

旧年中はお世話になり、ありがとうございました。

留学生へ愛の宅配便

福岡のベトナム人男性

「米がほしい」「マスクがない」。新型コロナウイルス感染症拡大の影響でアルバイトを失うなどして困窮する知らずの外国人留学生たちに、フェイスブックで要請を聞き、支援物資を送り続けるベトナム人の若者がいる。福岡県粕屋町の会社員、フム・トゥルン・ドアンさん(28)。自身も来日当初、苦勞して専門学校に通ったドアンさんは「困っている人はたくさんいる。少しでも助けたい」と話す。

「今日は8人に送ります。6人が留学生で、お米が重くから結構お金(郵送料)がかかります」。14日、ドアンさんの自宅アパートを訪問すると、室内にはインスタントラーメンや米、調味料、消毒液などがうずたかく積み、ドアンさんは一人で発送するまで送る先を書いたり確認したりする作業に追われていた。

全国の87人に米やマスク

「放っておけないと思った」と相手の住所を聞き、近所のコンビニに食料品などを持ち込んで送るようになった。これまでに送った相手は87人。在留期間が切れたが感染拡大の影響で帰国ができず、働くこともできず待機するしかなくなった愛知県在住の技能実習生や、アルバイト先がなくなくなった千葉県の実習生など送り先は全国に及ぶ。大半は同じベトナム人だが、中にはスリランカやスリランカから来た人もいる。

活動は当初、完全に手弁当だった。自費で食料を買い、福岡県内は車で届けるなどして20万円以上を使ったが、曾



留学生に発送する食料品などの詰め込み作業をするドアンさん(福岡県粕屋町)

早良区)もほとんどなく活動を知らず困窮する知り、金銭面でバックアップしてくれることになった。

事務局の竹内正直・行政書士(65)は「日本語がおぼつかなかったり、恥じらいがあったりして支援してほしいと言えない外国人は多い。日本語学校やキリスト教の教会など、彼らが集まる場所もコロナ対策でなくなり、困っている声を拾えない中、ドアンさんの活動は多くの人の助けになる」と感心する。

2012年に来日したドアンさんは専門学校を卒業後、福岡市内の自動車整備会社に就職した。専門学校時代は自身も積金をして学費に充て、苦しい生活を経験した。「自分分は給料があるからいいが、特に留学生はバイトもなくなり、その日食べるものにも困っている」と、コロナに翻弄される同胞らを思いやる。

支援の振込先は、郵便振替0175014146468、口座名「ネットワーク九州」。問い合わせは福岡の法務オフィス竹内(092・834・5060)。

【早良区、写真も】

困っていたら

助けたい

九州道に3少年
コンクリート塊投入

熊本県警は22日、熊本市
のコンクリート塊投入

なせ
ヨーク
トクシャ

段から連絡を取っていた外国 働者と共に生きるネットワーク
人労働者の支援団体「移住者
ク・九州」(事務局・福岡市

段から連絡を取っていた外国 働者と共に生きるネットワーク
人労働者の支援団体「移住者
ク・九州」(事務局・福岡市

2020.5.23 毎日新聞